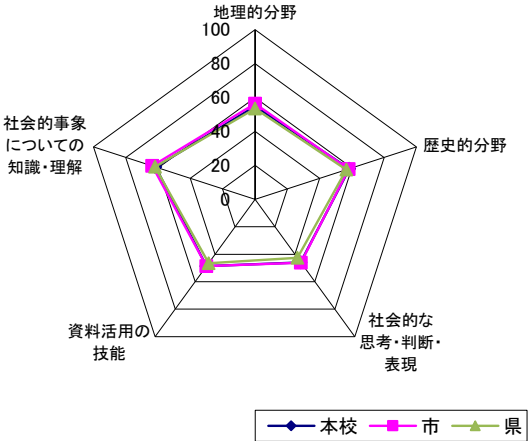


宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	54.9	56.4	53.5
	歴史的分野	58.4	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	45.9	46.1	42.5
	資料活用・技能	48.6	48.6	46.5
	社会的事象についての知識・理解	61.6	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○県平均を上回り、市平均にも約1.5ポイント差まで迫った。長らく地理的分野を苦手としてきた本校であったが、改善が見られた。 ○資料活用・技能、社会的な思考・判断・表現の問題や発展的な活用問題の正答率が昨年度より高かったのは評価できる。 ○地図の選択と方位、気候帯の選択、気候帯に合わせた生活、宗教の分布と特徴、雨温図の選択の問題は大変正答率が高く、市平均や県平均を大幅に上回っている。資料活用・技能の力が例年より向上した。 ●正答率が低かったのは、地図から経度を求める問題、ロッキー山脈やアマゾン川の名を答える問題、北アメリカの工業の変化を短文で書く問題である。南北アメリカの基礎的な語句の正答率が低かったのは1年の定期テストで出題していなかった影響がある。(2年で出題した)	・定期テストの範囲にして、しっかりテスト勉強をさせることで、知識の定着が図れることが明らかになった。今後も習った範囲はすべて定期テストで出題することで、知識・理解の力を伸ばしていきたい。今回弱かった分野は2年の定期テストで出題しているので、今後は改善が期待できる。 ・地理的分野への苦手意識が改善できるように、学ぶ楽しさをもてるような授業実践に取り組みたい。 ・雨温図やグラフの特徴をつかむ力は確実に向上しているので、資料を的確に読み取る活動を授業で適宜実施していきたい。資料を読み取るコツをしっかりと指導することが大切になる。 ・資料のポイントを読み取り、思考し、短文としてまとめる学習を授業でなるべく多く実施していきたい。記述問題の正答率の向上のためにも、どんどん文章を書かせていきたい。 ・地理的分野と歴史的分野の融合問題対策のために、都道府県や主な国の場所をしっかりと覚えさせていく。
歴史的分野	○県平均はもちろん市平均をも上回った。本校は歴史的分野を得意としてきたが、例年以上に良い結果である。 ○資料活用・技能、社会的な思考・判断・表現の問題や発展的な活用問題の正答率が昨年度より高かった。 ○世紀を答える問題、堅穴住居の名称、防人や聖武天皇の選択、社会の変化を答える記述問題、鎌倉幕府の場所を選ぶ問題は大幅に上回っている。特に鎌倉時代までの重要語句の正答率は市や県の平均を15ポイント以上上回っている。また、短文で答える問題の正答率が例年より向上した。 ●正答率が低かったのは、応仁の乱や勘合の名称と応仁の乱後の社会の風潮を答える問題、会話文から中世の外交関係を読み取る問題である。室町時代以降については、1年の定期テストで出題していなかったため、知識が定着していなかったと考えられる。(2年で出題した)	・歴史については普段の授業から興味を持って取り組んでいる生徒が多いのが、学力の向上につながっている。プリントによる学習や毎時間の復習に力を入れている成果が出たと思われるので継続していく。 ・定期テストの勉強をしっかりとさせることで、知識の定着が図れることは明らかである。今後も定期テストのための復習を通じて知識・理解の力を伸ばしていきたい。室町時代以降は2年の定期テストで出題しているので、大幅な改善が期待できる。 ・歴史的分野については、歴史資料を読み取る問題や地図を使った問題も正答率に向上が見られた。今後も資料のポイントをしっかりとらえられるように指導していく。 ・記述問題については、重要ポイントを押さえて文章化する学習を適宜実施していくことで更なる向上を図りたい。 ・歴史の流れを大局でつかむ力を育てないといけない。節目節目で年表等を活用する学習を取り入れていく。